

## 「クリーニングドクターの豆知識」その13

### 誰も教えてくれない柔軟剤の事①

デメリット編

まずは柔軟剤の主成分を知らなければ話になりません。

「柔軟剤の成分」皆さん1度でも考えたことがありますか？結論から言うと『油脂(油)』です。界面活性剤とかのムズカシイ話は飛ばして、わかりやすく油としておきます。

つまり繊維の表面を油で覆うので、肌触りが柔らかくなるという理屈です。詳しく説明すると、イオン性とか分子とかの話になるので、これも割愛します。

これからが本題です。何にでもメリットとデメリットがあります。柔軟剤にも『油脂』ゆえの、デメリットがあります。ここからは本当に大事な話です。会員の方は年会費を払う以上の価値がありますよ(笑)

#### デメリット① 酸化する

料理をする方は、揚げ物の油を何度も繰り返し使うと、色が濃くなり油臭くなるのをご存知でしょう。それは酸化によるものです。酸化した油は体に悪いので、なるべく使わないでください。柔軟剤の油脂も同様。そして酸化した油は体に悪いのです。

※この豆知識は(柔軟剤編)は会員限定の情報です。

●会員の方は「MENU」→「会員の皆様へ」からご覧ください。  
●会員以外の方で豆知識の内容を読みたい方は、下のいずれかをお選びください。

①会員になる ②店頭で豆知識だけ購入する(一部100円)  
それは柔軟剤の油脂が、紫外線や時間の経過で酸化⇒変色した可能性があります。酸化した油は変色することは覚えておいてください。それと酸化した油のシミは非常に取れにくいことも！

#### デメリット② 吸水性が落ちる

これを聞くと意外に思うかもしれませんが、でも簡単な理屈です。

繊維の表面を油で覆えば、そりゃ水分を吸いにくくなります。だって「水と油」ですからね。

どうですか？すごくわかりやすいでしょう。だから汗や水分を吸わせるための繊維、つまり下着やタオル等には柔軟剤を使うべきではないのです。「それではゴワゴワになるじゃないか」と言う方は、今後の豆知識を強くご愛読ください。待てない方はインターネットで調べるか、店頭で私に訊いてください。

#### 今回のまとめ

- ①柔軟剤は油脂が主成分である。
- ②酸化した油脂は皮膚に悪い。変色する。
- ③油脂は水分をはじき、吸水性を損なう。



知識はチカラです。次回につづく